

高崎市文化財調査報告書第194集

萩原沖中遺跡

都市計画道路宿横手・大沢線街路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

高崎市教育委員会

、序

高崎市は、上毛三山を見渡せる、関東平野が北西の山々と出会うところに位置し、市内にはそれら周囲の山々の水を集めた大小の河川が流れ、遥か太平洋へと注いでいます。こうした地理的条件のために、そこでは、古くから人々が生活し、出会い、行き交いながら発展してきました。本市も高速交通・通信ネットワーク化時代を迎え、北関東における「交通拠点都市」としての本市の役割はますます増しており、更なる発展を続けております。

振り返ってみれば近代以降の日本の歩みは、明治期の日本における産業革命、戦後の高度経済成長に見られるように開発と発展を一途に目指してきたといっても過言ではありません。そのことは一方で有り余るほどのものや、効率的で便利な生活を私たちにもたらしましたが、他方においては、再生不可能な郷土の景観を壊し、人と人、人と自然がともに暮らす時間、場所、そして心を失いました。また、歴史を知るための貴重な文化遺産である数多くの埋蔵文化財の破壊と消滅も同時にもたらしました。しかし、このままでは、限りある資源と自然の中で、これまで通りのやり方を続けることは不可能となってきています。今、私たちに課せられた課題は、人と人、暮らしと豊かな自然、そして文化が薫る「共生するまち」高崎市を未来の人々に伝え、残すことです。

本書は、都市計画道路宿横手大沢線の築造に伴って実施した発掘調査の報告書です。これまでの市内諸調査の結果と合わせて、高崎市の歴史解明のための貴重な資料となるものと思います。

最後になりましたが、本遺跡の調査に多大の協力を賜りました地元の皆様、ならびに関係諸機関の方々に厚くお礼申し上げるとともに、発掘及び整理作業に従事していただいた作業員の方々に感謝の意を表します。

平成17年3月31日

高崎市教育委員会
教育長 砂田 威夫

例 言

- ・本書は、都市計画道路 3.4.23 宿横手・大沢線築造に伴い、実施した平成15年度「萩原沖中遺跡」の発掘調査報告書である。
- ・本遺跡は、群馬県高崎市萩原町に所在する。
- ・発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係が行なった。
- ・発掘調査期間は平成16年1月8日～3月23日、整理作業期間は平成16年6月1日～平成17年3月25日である。
- ・平成15年度調査組織（事務局） 結城千尋 斉藤寛方 片平映里（発掘担当）池田 敬
平成16年度調査組織（事務局） 神戸聖語 斉藤寛方 山下孝子（整理担当）吉田昌利
- ・調査担当者池田が、平成15年度末人事異動で異動したため、本書の編集は、吉田が行った。
- ・遺物整理、遺構挿図作成等は、担当職員の指示の下に武井幸子、矢島なつ美が行った。
- ・遺構の写真撮影は池田が行った。
- ・基準点測量は高崎三守測量所に、遺構平面図、等高線図、空中写真撮影は朝岡研に、自然科学分析は朝古環境研究所にそれぞれ委託した。
- ・発掘調査に当たり、地元関係の方々及び高崎市役所建設部都市施設課にご協力をいただいた。

凡 例

- ・本書に使用した地図は、1/2,500高崎市都市計画図（No.26）、1/2,000都市計画集成図（高崎市役所発行）及び国土地理院発行の1/25,000地形図である。
- ・本書中の方位記号は、世界地測系での座標北である。
- ・セクション、エレベーションの各図に付した数字（L＝）は、海拔を表し、単位はmである。
- ・色調の名称は、農水省農林水産事務局朝日本色彩研究所監修「標準土色帖」によった。
- ・本書で使用している用語について
「A軽石」＝浅間A軽石（As-A）：1783年（天明3年）の浅間山噴火に由来する火山灰
「B軽石」＝浅間B軽石（As-B）：1108年（天仁元年）の浅間山噴火に由来する火山灰
「FP洪水層」＝榛名二ツ岳－渋川テフラ Hr-FP：6世紀中葉の榛名二ツ岳の噴火に由来する洪水層
「FA洪水層」＝榛名二ツ岳－伊香保テフラ Hr-FA：6世紀前葉の榛名二ツ岳噴火に由来する洪水層
「C軽石」＝浅間山C軽石As-C：4世紀中葉の浅間山噴火に由来する火山灰

目 次

序・例言・凡例

第Ⅰ章 経緯・経過	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の概要	
1. 調査の方法	
2. 調査の経過（作業日誌抄）	
第Ⅱ章 遺跡の立地	1
第1節 遺跡の地理的環境	
第2節 遺跡の歴史的環境	
第Ⅲ章 検出した遺構	2
第1節 中・近世	
第2節 平安時代末葉	
第3節 古墳時代6世紀中葉	
第4節 古墳時代6世紀初頭	
第Ⅳ章 遺跡の位置図と周辺遺跡図	3
第1節 遺跡位置図	
第2節 周辺の遺跡	4
第Ⅴ章 検出した遺構図版	5
第1節 浅間山B磐石下水田跡	
第2節 FA洪水下水田跡	
第Ⅵ章 まとめ	29

写真図版 遺構写真1～13

付章 「高崎市 萩原沖中遺跡の自然科学分析報告書」

鶴古環境研究所

報告書抄録

第Ⅰ章 経緯・経過

第1節 調査にいたる経緯

本調査地は、昨年度（15年度）に実施した萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡（高崎市文化財調査報告書第182集）から駒形線をまたぎ南東約350mのところに所在する。関越道・北関東道高崎インターに程近く、また、駒形線、前橋・長瀬バイパスが開通し、前橋市と境界を接していることから工業団地の造成も進み各種の研究が進出している。本遺跡を含む周辺地域は、将来、高崎市東部の工業地域として期待が高まっている。こうした中で、駒形線に接続する宿横手・大沢線築造が構想された。

宿横手・大沢線築造工事に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査は、本年度2年次であり、工事担当主管課とも調整をはかりつつ、高崎市教育委員会が発掘調査を行った。

なお、調査により得られた図面、遺物などの資料は、高崎市教育委員会が保存している。

第2節 調査の概要

1 調査の方法

予想される遺構が水田跡と考えられるので、浅間山B軽石下水田跡及びF A洪水下水田跡は重機により遺構確認面まで掘削をし、その後、手作業によって精査を行った。F P洪水下水田跡は、遺構検出が調査区の一部であったため、手作業によって掘削、精査を行った。

遺構測量については、国土座標に基づき基準杭の位置、標高を業者に委託して設定した。

遺構平面図、セクション図及びエレベーション図については、1/10、1/20及び1/40を基本とした縮尺で行った。

記録写真は、35mmモノクローム及びカラーリバーサルフィルムを使用し、遺跡の状況によりカラーネガフィルムを併用した。

2 調査の経過（作業日誌抄）

- 1月8日(木) 引越し作業、重機掘削開始。浅間山B軽石下水田面検出
 - 19日(明) 基準点測量
 - 21日(木) 第1回空中写真撮影（浅間山B軽石下水田面）。遺構平面図、コンタ図
 - 28日(木) 重機により2面目、3面目を掘削。5区で浅間山B下水田面検出
- 2月6日(金) 6区掘削
 - 12日(木) 第2回空中写真撮影（F P洪水下水田面、F A洪水下水田面）。遺構平面図、コンタ図
 - 25日(木) 第3回空中写真撮影（F P洪水下水田面）。遺構平面図、コンタ図
- 3月1日(明) 現地説明会開始
 - 4日(木) 現地説明会終了（見学者述べ43名）、引越し撤収作業
 - 5日(金) 4面目確認試掘トレンチ掘削
 - 8日(明) 埋め戻し作業開始、上滝調査事務所まで整理作業
 - 15日(明) 埋め戻し作業終了
 - 23日(火) 整理作業終了

第Ⅱ章 遺跡の立地

第1節 遺跡の地理的環境

高崎市は、関東平野の西部に所在し、地形的には前橋・高崎台地のほぼ中心に位置する。前橋・高崎台地は、約1.1～1.3万年前に発生したと考えられている井野川泥流堆積層及び約2万年前の浅間山黒斑山山

体崩壊に起因する火山性泥流堆積層（前橋泥流層）を基盤として、形成された台地で関東平野を北西から南東へゆるく傾斜する。台地表面は、榛名山を水源とする幾筋かの河川とその支流によって開析され、幅広い微高地と後背湿地を形成する。また、この台地は、過去幾度となく河川の氾濫や流路の変更、あるいは火山の噴火による降灰や、火山性の泥流によって、地形を変化させてきた。

本遺跡は、利根川右岸の自然堤防の西に広がる低地に所在する。西約150mに滝川が南東に流れる。滝川も過去幾度となく流路を変更しながら現在に至っている。埋蔵文化財発掘調査で確認できるのは、6世紀初頭の水田跡（F A 洪水下水田跡）が最も古く、以下、6世紀中葉の水田跡（F P 洪水下水田跡）、12世紀初頭の水田跡（浅間山B 軽石下水田跡）、そして現在に至るまで水田耕作地として利用されている。その間、繰り返される洪水と闘いながら水田耕作を続けてきた当時の人々の努力が偲ばれる。

第2節 遺跡の歴史的環境

周辺の遺跡からは、縄文、弥生時代の遺跡は確認されていない。また、今回の調査においても、縄文、弥生時代の遺跡は確認されなかった。検出した水田跡は、各時代に対応する遺物の出土がほとんど無かったため、覆土及び耕作土の自然科学分析に基づき古墳時代、平安時代の水田跡と判断した。

中近世における本遺跡を含む周辺地域の歴史的経過については、高崎市文化財調査報告書第182集『萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡』3ページを参照していただきたい。

第三章 検出した遺構

第1節 中・近世の遺構

浅間山A 軽石で埋まった溝を4条検出した。削平を受けているため全体像は分からない。また、1区ほかで、浅間山B 軽石層を掘り込み、B 軽石の混土で埋まったピット及び耕作痕と考えられる小ピットを検出した。

第2節 平安時代末葉

遺構は、1、2、3、4、5、6区で検出した。畦畔の残りは良好で、特に、2、3、5区では、条里制に由来すると考えられる大畦畔を検出した。また、浅間山B 軽石で埋まった溝及び取水口を検出した。

第3節 古墳時代6世紀中葉

遺構は、7、9、11、12、14区で検出した。水田面はF P 洪水層で覆われており、部分的にはあるがF P の純層が確認できた。耕作土は、黒色乃至灰色の粘質性土壌であったが、明確な畦畔は確認できなかった。プラント・オパール分析の結果、稲作の可能性が認められた。付章『自然科学分析報告書』、5ページを参照のこと。

第4節 古墳時代6世紀初頭

遺構は、8、10、13、15、16、17、18、19、20区で検出した。尚、16～20区はF P 水田跡を掘削して検出した遺構である。また、16区以下の調査区は、F P 水田跡を検出した調査区と対応している。

F A 洪水層に覆われていたこと、耕作土壌が強い粘性のある黒色土であること、水田の形態が「小区画水田」であること、プラント・オパール分析の結果、稲科のプラント・オパールが多量に検出されたこと等からF A 洪水下水田と判断した。付章『自然科学分析報告書』、5ページを参照のこと。

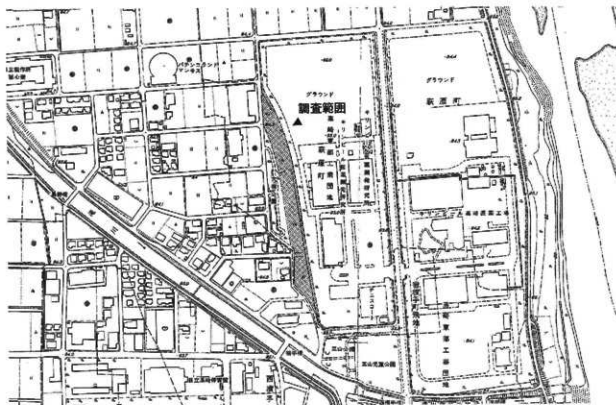
第Ⅳ章 遺跡の位置図と周辺の遺跡

第1節 遺跡位置図



S = 1/20,000

図1 遺跡位置図



S = 1/2,500

図2 位置図

第2節 周辺の遺跡



図3 周辺遺跡図

- | | | | |
|--------------------|--------------|---------------|-------------|
| 1. 萩原上五丁田Ⅲ遺跡 | FA 水田 | 14. 島野神明遺跡 | B下畠 |
| 2. 萩原上五丁田Ⅱ遺跡 | FA FP B水田 | 15. 島野四辻遺跡 | B水田 |
| 3. 萩原上五丁田Ⅰ遺跡 | FA FP B水田 | 16. 島野村西遺跡 | FA、B水田 |
| 4. 萩原八幡西遺跡 | FA FP水田 | 17. 島野村東遺跡 | B水田 |
| 5. 萩原八幡坤遺跡 | FA 水田 | 18. 元島名瓦井遺跡 | B水田 |
| 6. 西横手遺跡群(Ⅰ)(Ⅱ)周溝墓 | FA B水田 | 19. 元島名中子遺跡 | B水田 |
| 7. 大沢村北遺跡 | B水田 | 20. 元島名鈴之宮Ⅰ遺跡 | 古墳 住居 |
| 8. 大沢大沢西遺跡 | FA B水田 | 21. 元島名鈴之宮Ⅱ遺跡 | 周溝墓 |
| 9. 京目杉ノ内遺跡 | FA B水田 | 22. 元島名諏訪北遺跡 | B水田 |
| 10. 京目久保遺跡ほか | C B水田 | 23. 島野中町遺跡 | FA B水田 |
| 11. 京目不動西遺跡 | B下大型水路 B水田 | 24. 情報団地遺跡 | B水田 古墳住居 |
| 12. 京目作道遺跡 | C下溝 B水田 | 25. 萩原団地 | C FA FP B水田 |
| 13. 西島相ノ沢遺跡 | 弥生環壕集落古墳 B水田 | | |

第V章 検出した遺構図版

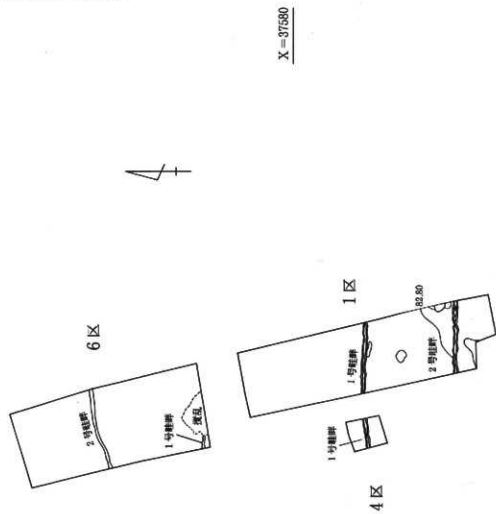
第1節 浅間山B軽石下水田跡

Y = -68360

Y = -68380

Y = -68400

Y = -68420



X = 37530

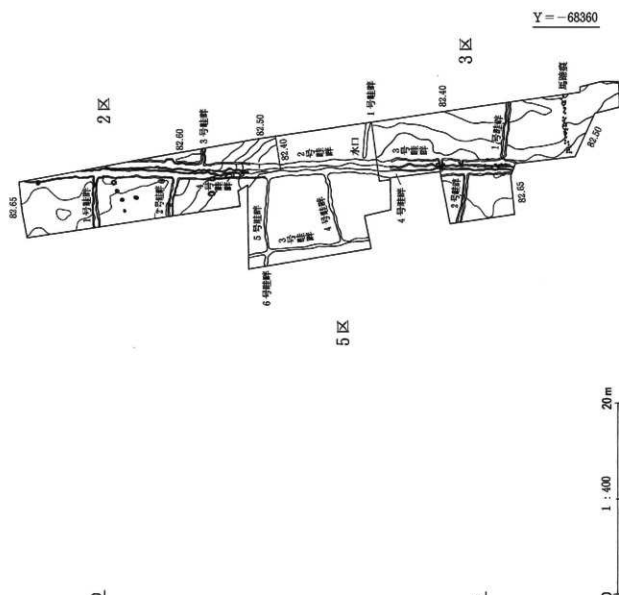
X = 37580

X = 37540

X = 37540

X = 37500

X = 37500



Y = -68360

Y = -68380

Y = -68400

Y = -68420

図4 B軽石下水田全体図



图5 B区B井石下水田面

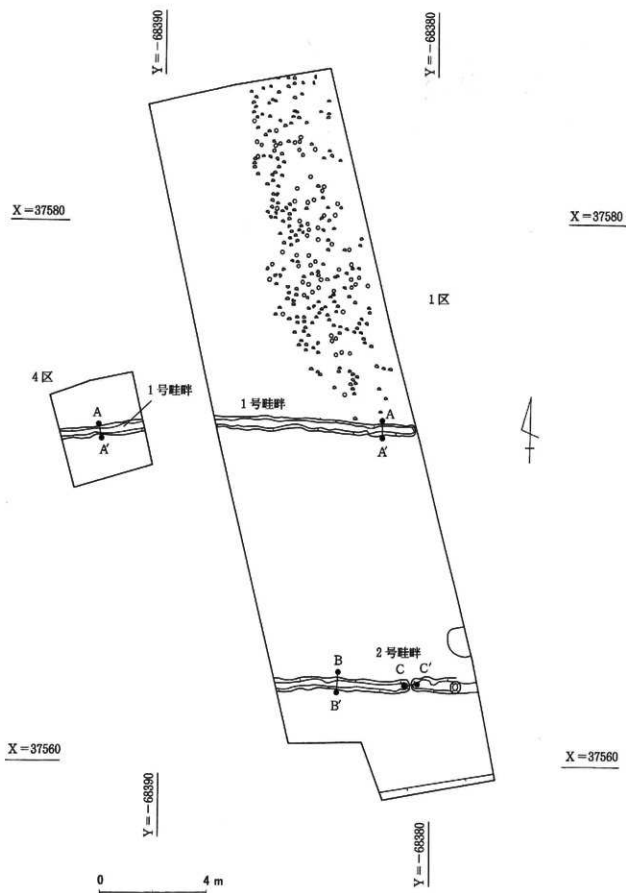


图6 1区·4区B畦石下水田面

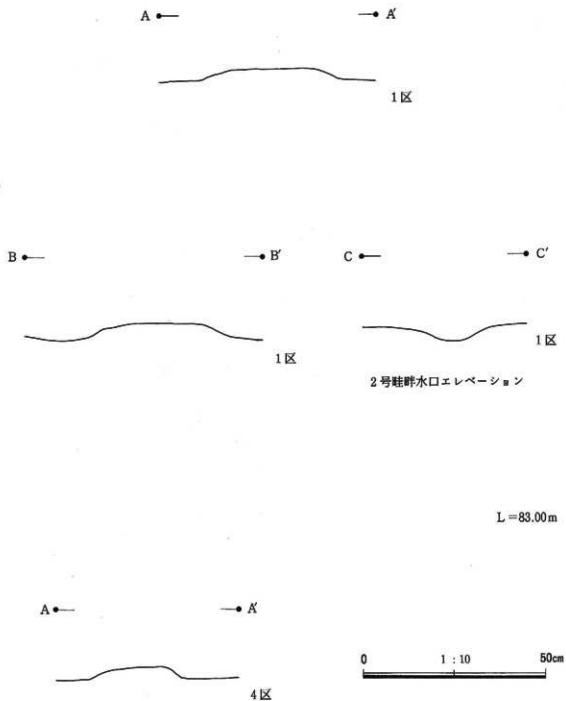


図7 1区の畦畔と水口エレベーション・4区1号畦畔エレベーション

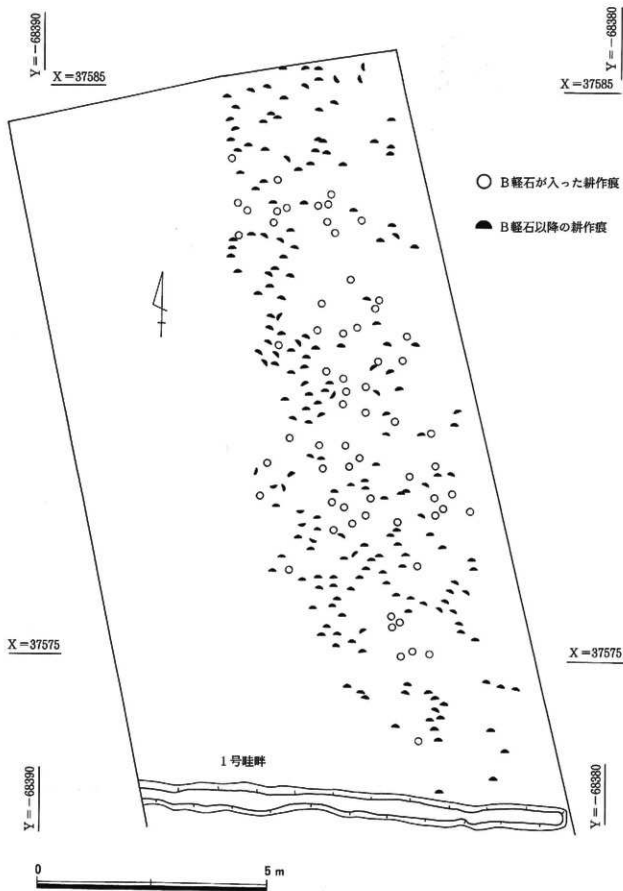


図8 I区北東部分耕作痕分布図

Y = -68385

Y = -68370

X = 37540

X = 37540

X = 37530

X = 37530

0 4 m

Y = -68385

Y = -68370

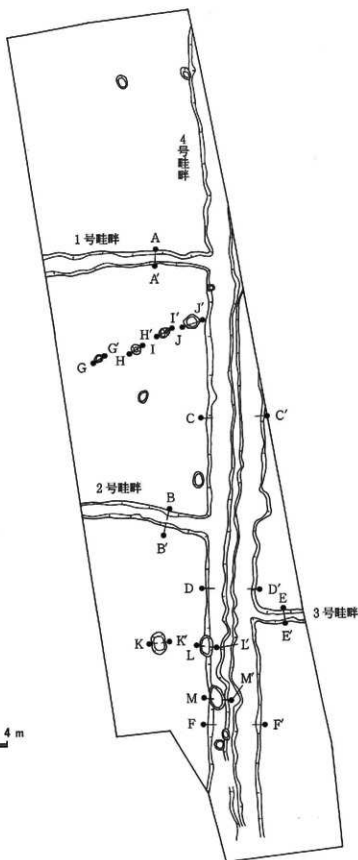


图9 2区B峰石下水田面

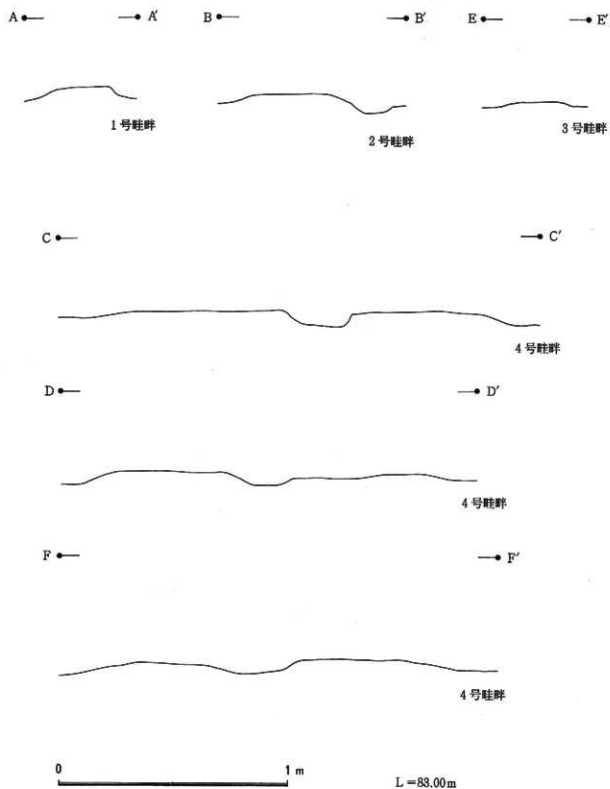


図10 2区畦畔エレベーション図

J ● — — ● J' I ● — — ● I' H ● — — ● H'



G ● — — ● G'

L ● — — ● L'



K ● — — ● K'

M ● — — ● M'



L = 83.00m

図11 2区ビットエレベーション図

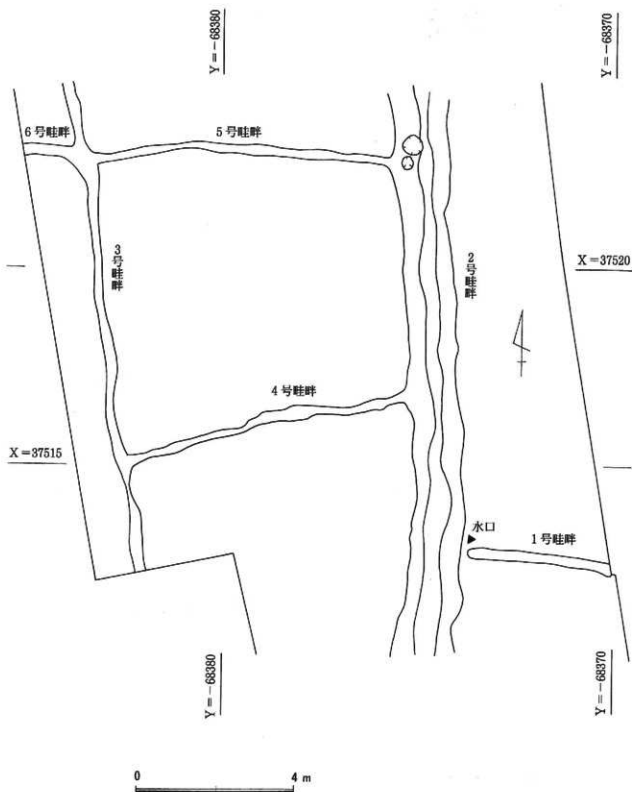


图12 5区B轻石下水田面

L = 83.00m

D ● —

— ● D'



3号畦畔

E ● —

— ● E'



3号畦畔

F ● —

— ● F'

G ● —

— ● G'

H ● —

— ● H'



2号畦畔



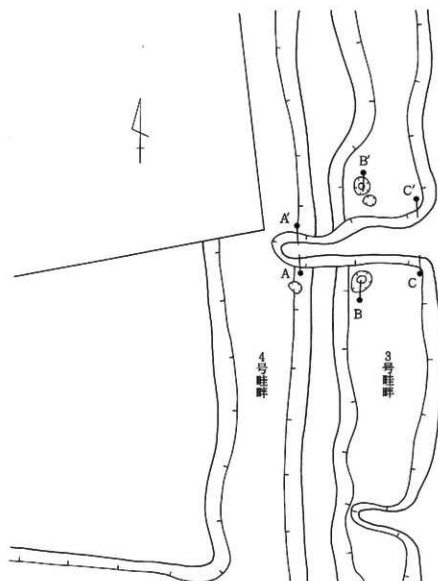
1号畦畔水口



1号畦畔



図14 3区畦畔エレベーション図



3号畦畔取水口

L = 83.00

A — — • A' B — — • B' C — — • C'



3号畦畔取水口エレベーション



図15 3区3号畦畔取水口

第2節 FA洪水下水田跡

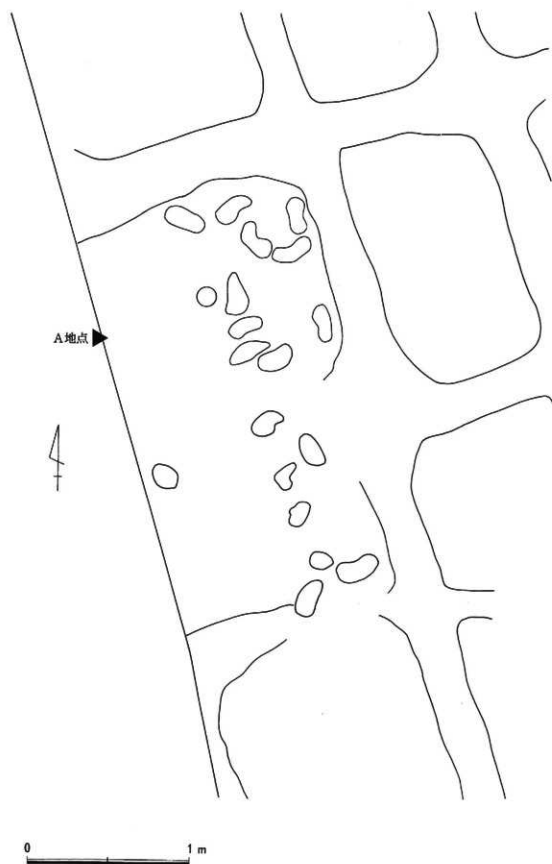


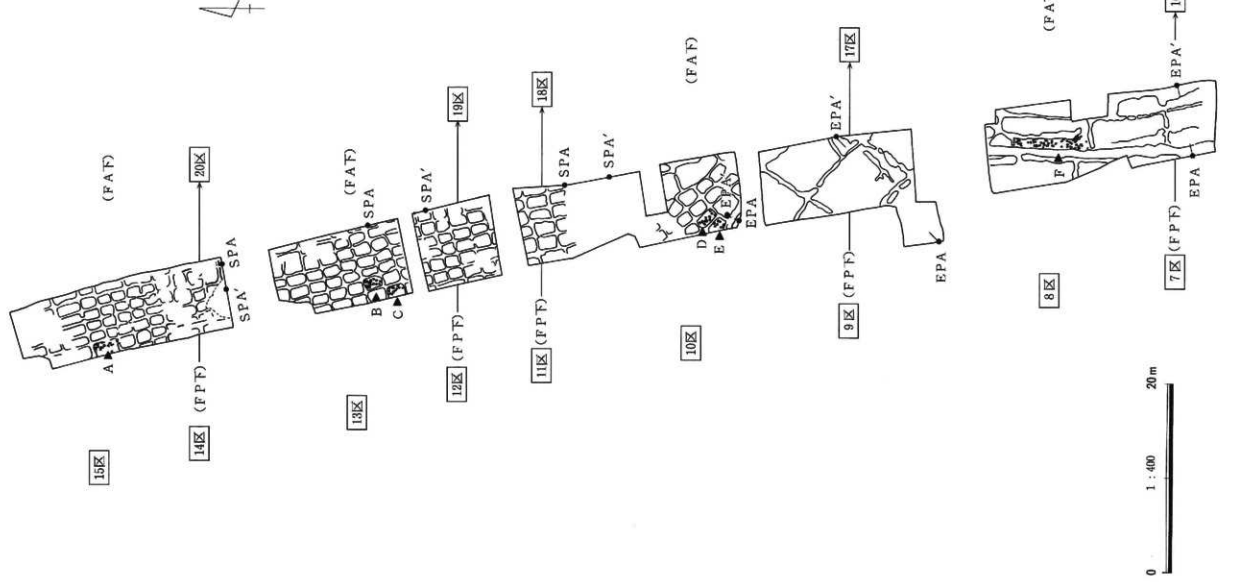
図16 FA下水田面足跡実測図A地点

Y = -68350

Y = -68400

X = 37500

X = 37600



Y = -68400

図16 古墳時代 (F A下- 6 世紀初期、F P T下- 6 世紀中葉) 水田

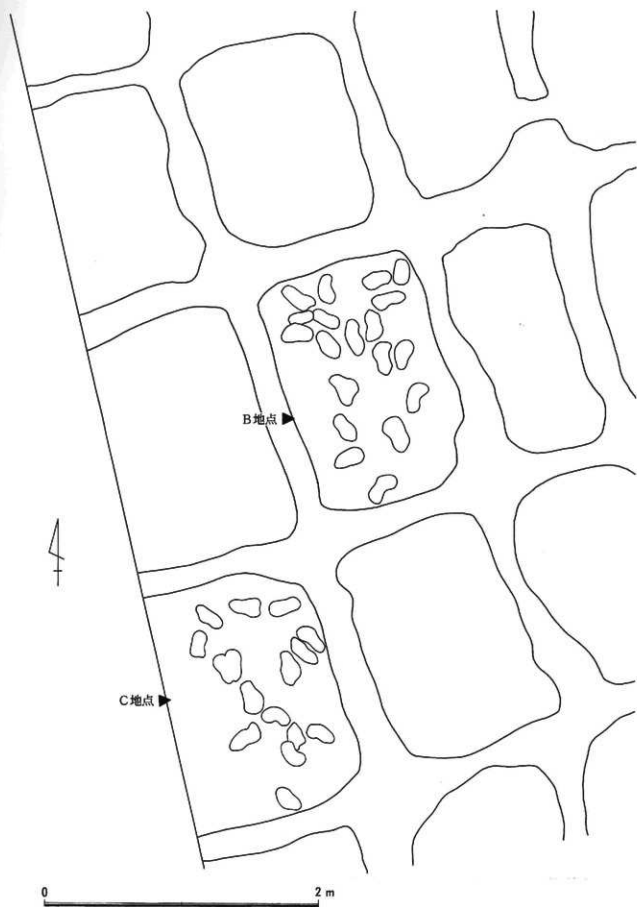


图18 F A下水田面足跡実測図B・C地点

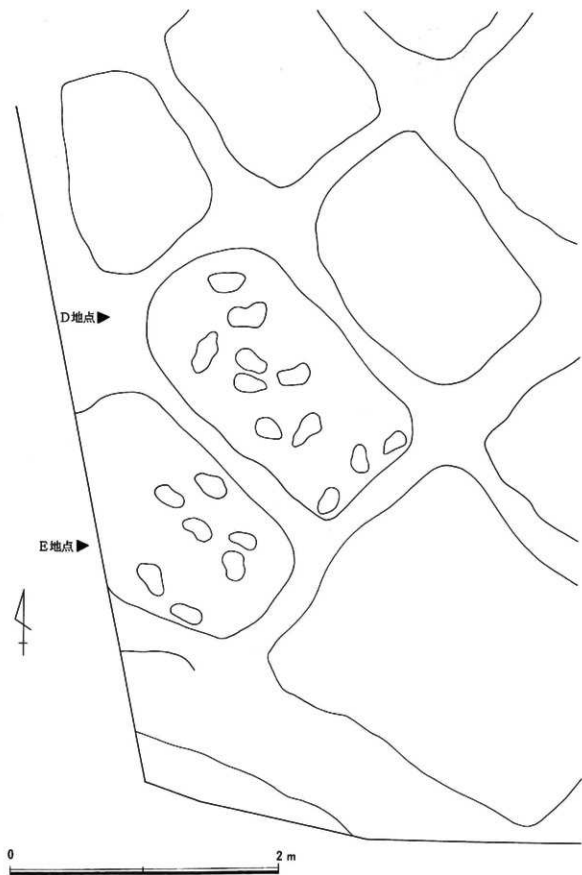


图19 FA下水田面足跡实测图D·E地点

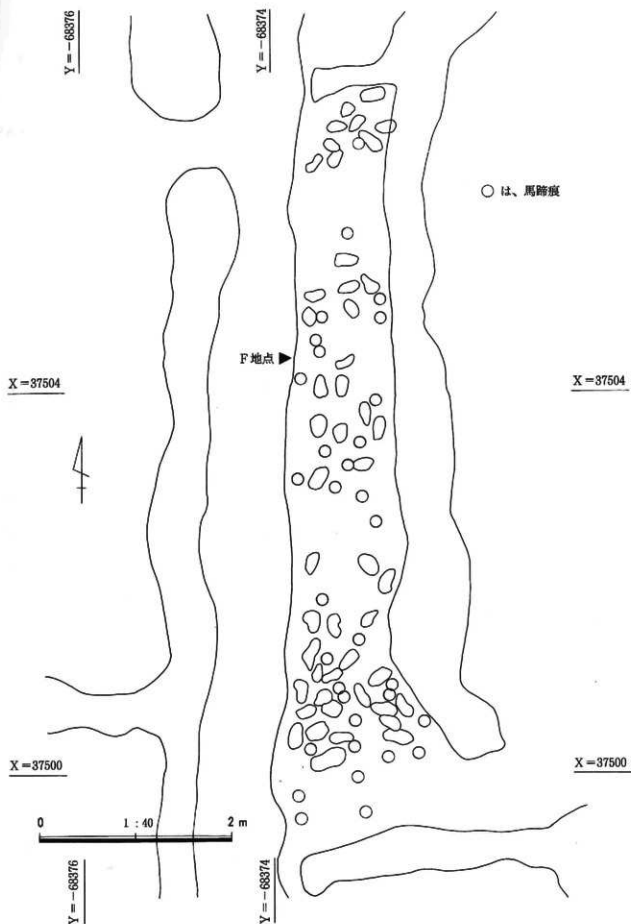


図20 FA下水田面足跡・馬蹄痕図F地点

L=83.00

EP A ● — — — — — ● EP A



図21 10区FA下趾部エレベーション図

EP A ● — — — — —

— ● EP A



図22 17区FA下エレベーション図

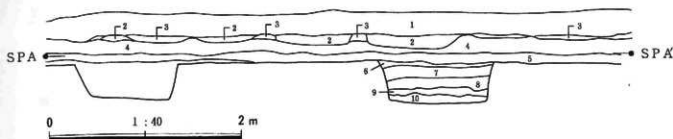
EP A ● — — — — —

— ● EP A



図23 16区FA下エレベーション図

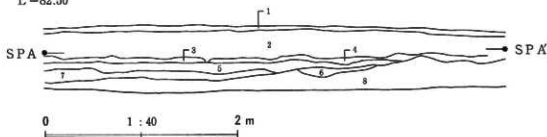
L=80.91



- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1. 5Y 4/1 灰色 | シルト |
| 2. | 砂質、A軽石 |
| 3. 7.5YR 5/8 明褐色 | サラサラ、微小砂質 |
| 4. 10YR 4/4 褐色 | シルト |
| 5. 10YR 3/3 暗褐色 | B軽石 |
| 6. 10YR 3/1 黒褐色 | 強粘質 |
| 7. 2.5Y 5/2 暗灰色 | 強粘質 |
| 8. 7.5YR 7/6 橙色 | 下部に5YR 7/6橙が斑状に分布 |
| 9. 10YR 4/1 褐灰色 | 上部に8/1灰白が1mm見られる所あり (FP純層) |
| 10. 10YR 2/1 黒色土 | 強粘質、上部に7.5YR 6/8 (FA洪水堆積) 斑に入る |

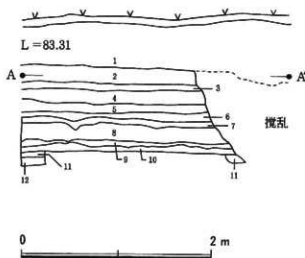
図24 13区東壁セクション図 A 軽石処理坑跡

L=82.50



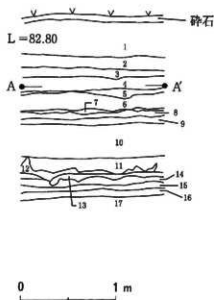
- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1. 10YR 3/1 黒褐色 | 強粘質 (B 軽石下水田土壌) |
| 2. 10YR 6/1 褐灰色 | 粘質 |
| 3. 10YR 7/4 にぶい黄橙色 | 粘質 |
| 4. 10YR 5/1 褐灰色 | 粘質 |
| 5. 10YR 5/1 褐灰色 | 粘質、上部5mmほど3/1黒褐土層あり |
| 6. 10YR 3/2 黒褐色 | 砂質多い (C 軽石) |
| 7. 10YR 4/1 褐灰色 | 2mm~3mmの白色粒C 軽石10% |
| | 上部に10YR 6/8 明黄褐がブロック状に混じる所あり |
| 8. 10YR 2/1 黒色 | 強粘質 |

図25 10区東壁セクション図



- | | | | | |
|-----|-----------|--------|----|-------------------------------------|
| 1. | 10YR 5/4 | にぶい黄褐色 | 砂礫 | 埋土 |
| 2. | 10YR 4/1 | 褐灰色 | | |
| 3. | 10YR 5/6 | 黄褐色 | | シルト |
| 4. | 10YR 3/4 | 暗褐色 | | |
| 5. | 10YR 2/3 | 黒褐色 | | 砂質、B 軽石層
(混土層か) |
| 6. | | | | B 軽石層 |
| 7. | 10YR 3/1 | 黒褐色 | | 強粘質 |
| 8. | 10YR 5/1 | 褐灰色 | | 粘質 |
| 9. | 7.5YR 6/4 | にぶい黄橙色 | | シルト (FP) |
| 10. | 10YR 4/1 | 褐灰色 | | 粘質 |
| 11. | 10YR 3/2 | 黒褐色 | | 粘質、上部に10
YR6/8 斑状に
(FA) 1mm含む |
| 12. | 10YR 2/1 | 黒色 | | 強粘質 |

図26 20区南壁セクション

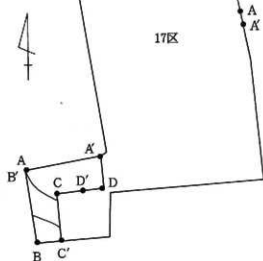


- | | | | | |
|-----|----------------|--------|----|-----------------------------------|
| 1. | 10YR 5/4 | にぶい黄褐色 | 砂礫 | 埋土 |
| 2. | 10YR 4/1 | 褐灰色 | | |
| 3. | 10YR 5/6 | 黄褐色 | | シルト |
| 4. | 10YR 4/2 | 灰黄褐色 | | シルト |
| 5. | 10YR 5/8 | 黄褐色 | | やや粘質 (中世利根川洪水層) |
| 6. | 10YR 3/4 | 暗褐色 | | やや砂質含む |
| 7. | 10YR 2/3 | 黒褐色 | | B 軽石層 |
| 8. | | | | B 軽石層 |
| 9. | 10YR 3/1 | 黒褐色 | | 強粘質 |
| 10. | 10YR 6/1 | 褐灰色 | | 粘質 |
| 11. | 10YR 7.5YR 6/1 | 褐灰色 | | 粘質 (FP洪水層) |
| 12. | 10YR 4/1 | 褐灰色 | | 粘質、上部に8/1灰白 (FP
層) 1mm部分的に見られる |
| 13. | 10YR 7/3 | にぶい黄橙色 | | サラサラの微小砂質
(FA洪水層) |
| 14. | 10YR 2/1 | 黒色 | | 強粘質 |
| 15. | 10YR 1.7/1 | 黒色 | | 強粘質 |
| 16. | 10YR 2/1 | 黒色 | | 強粘質 |
| 17. | 10YR 4/1 | 褐灰色 | | 強粘質 |

図27 16区南壁セクション

X = 37530

Y = -68385



Y = -68365

X = 37530

X = 37510

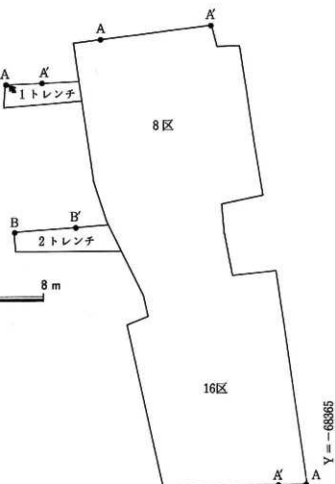


X = 37510

0 1 : 200 8 m

X = 37490

Y = -68385

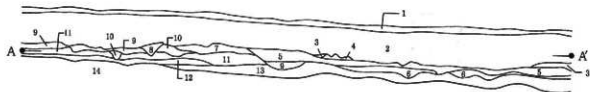


Y = -68365

X = 37490

図28 8区、16区、17区セクションポイント位置図

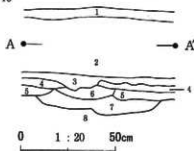
L=82.20



- | | | |
|-------------------------|----------|--------------------------------|
| 1. 10YR 2/1 | 黒色 | 粘質 (B 軽石下水田) |
| 2. 10YR 5/2 | 灰黄褐色 | 粘質 |
| 3. 5 YR 6/4 | にぶい黄橙色 | |
| 4. 10YR 4/1 | 褐灰色 | 粘質 |
| 5. 10YR 5/1 | 褐灰色 | 粘質、上部に8/1灰白 1 mm (FP) が残るところあり |
| 6. 10YR 6/3 | にぶい黄橙色 | 砂質、サラサラ |
| 7. 10YR 3/1 | 黒褐色 | 強粘質 |
| 8. 10YR 4/1 | 褐灰色 | 粘質土 |
| 9. 10YR 4/1
10YR 6/8 | } が斑状に入る | 粘質土 |
| 10. 10YR 5/2 | | |
| 11. 10YR 2/1 | 黒色 | 粘質 2~3 mm の白色粒 (C 軽石) 混入10% |
| 12. 7.5YR 3/1 | 黒褐色 | 粘質 2~3 mm の白色粒 (C 軽石) 混入20% |
| 13. 10YR 2/1 | 黒色 | 強粘質 |
| 14. 10YR 4/1 | 褐灰色 | 強粘質 |

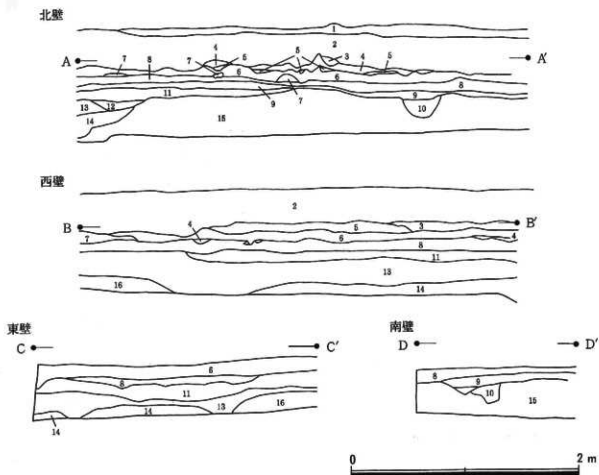
図29 8区北壁セクション、B 軽石下水畦畔とF A 下水畦畔

L=82.40



- | | | |
|--------------|-------|---|
| 1. 10YR 3/1 | 黒褐色 | 強粘質 (B 軽石下水田土壌) |
| 2. 10YR 5/2 | 灰黄褐色 | 粘質 |
| 3. 7.5YR 6/4 | にぶい橙色 | 粘質 (FP) |
| 4. 10YR 3/1 | 黒褐色 | 強粘質 |
| 5. 10YR 7/4 | にぶい黄橙 | 砂質 (FA) |
| 6. 10YR 3/2 | 黒褐色 | 強粘質、鉄サビ分斑状に混じる |
| 7. 10YR 2/1 | 黒色 | 強粘質 |
| 8. 10YR 3/1 | 黒褐色 | 強粘質、所々ブロック状に砂質 (C 軽石) を含む。2~3 mm の白色粒 (C 軽石) を10% 含む。 |

図30 17区東壁セクションF A 下水畦畔断面

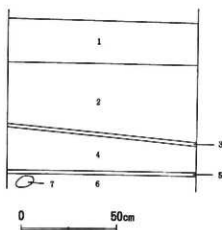


L = 82.40

- | | | |
|--------------|--------|-----------------------------|
| 1. 10YR 3/1 | 黒色 | 強粘質 (B 軽石下水田) |
| 2. 10YR 5/1 | 褐灰色 | 粘質 |
| 3. 10YR 5/2 | 灰黄褐色 | 粘質 |
| 4. 10YR 6/4 | にぶい黄橙色 | 粘質 |
| 5. 5 YR 7/6 | 橙色 | 粘質 |
| 6. 10YR 5/2 | 灰黄褐色 | 粘質、10YR 6/8 明黄褐色混入 |
| 7. 10YR 6/8 | 明黄褐色 | FA |
| 8. 10YR 2/1 | 黒色 | 強粘質 |
| 9. 10YR 3/2 | 黒褐色 | 2 ~ 3 mm の白色粒 (C 軽石) 30% 混入 |
| 10. 10YR 4/1 | 褐灰色 | C 軽石 50% 混入 |
| 11. 10YR 4/2 | 灰黄褐色 | 鉄分 40% |
| 12. 10YR 6/2 | 灰黄褐色 | シルト |
| 13. 10YR 5/3 | にぶい黄褐色 | シルト、砂分 10% (C 軽石か?) |
| 14. 10YR 4/1 | 褐灰色 | C 軽石 40% 混入 |
| 15. 10YR 3/2 | 黒褐色 | 強粘質 |
| 16. 10YR 7/3 | にぶい黄橙色 | 強粘質 |

図31 17区セクション図第1面~第4面 (C混土層)

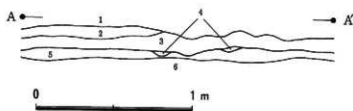
柱状図（位置は図28に示す）



1 トレンチ柱状図土層説明

- | | | | |
|----------|-----|--------|-----------|
| 1. 2.5Y | 5/2 | 暗灰黄色 | 強粘質 |
| 2. 7.5YR | 6/4 | にぶい黄橙色 | |
| 3. 10YR | 4/1 | 褐灰色 | （層厚 2 mm） |
| 4. 5 YR | 7/6 | 橙色 | |
| 5. 10YR | 3/1 | 黒褐色 | （層厚 2 mm） |
| 6. 10YR | 4/1 | 褐灰色 | |
| 7. 10YR | 6/4 | | |

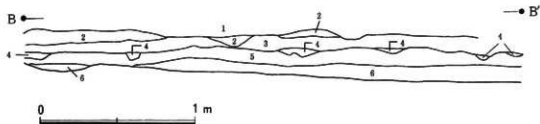
L=82.41



（土層説明は、2 トレンチに同じ）

図32 8区1 トレンチ北壁セクション図

L=82.41



- | | | | |
|----------|-----|--------|--------------------------|
| 1. 2.5Y | 5/2 | 暗灰黄色 | 強粘質 |
| 2. 7.5YR | 6/4 | にぶい黄橙色 | |
| 3. 10YR | 4/1 | 褐灰色 | 10YR 6/4にぶい黄橙50%ブロック状に混入 |
| 4. 7.5YR | 6/8 | 橙色 | サラサラ |
| 5. 10YR | 2/1 | 黒色 | 強粘質 |
| 6. 7.5YR | 4/4 | 褐色 | 強粘質 |

図33 8区2 トレンチ北壁セクション図

第Ⅵ章 ま と め

今回の調査で得られた成果は、以下のようなものである。

中・近世の遺構

時代の新しい順に、中近世の溝或いは処理坑（天明3年の浅間山噴火を給源とする火山灰を処理した土坑）、浅間山B軽石層を掘り込んだピット群など。処理坑、ピット群を検出した面は、調査区外にも広がりを推測できるが、かなり削平されており、遺構の遺存状態はあまりよくなかった。このため、調査範囲に限っても遺構全体を確認することができなかった。なお、この面からは、太平洋戦争中米軍により投下されたと思われる不発弾が出土したため、関係機関に通報し適切に処理を行った。

天明3年の浅間山噴火について書かれた記録は、「文月浅間記」など多数の文献資料が残されている。

平安時代の遺構

浅間山B軽石下水田跡は、高崎市の丘陵部、河川を除くほぼ全域で見られる遺構である。時期的に平安時代末葉に比定されるが、文献資料に乏しく、藤原実資の日記「小右記」に浅間山噴火についての記述がある程度で、他に文献資料を見出せなかった。

ところで、高崎市域で検出される浅間山B軽石下水田跡は、その多くの場合、低地或いは湿地に作られ、F P乃至F A洪水層の上に堆積した強粘質性の黒色土壌を耕作土としている。一部に火山灰を取り除き復旧を試みた遺跡もあるが、火山灰が降下した当時のまま水田耕作を放棄してしまった、と思われる遺構も多数検出されている。今回の調査で検出した遺構は、放棄された水田跡と考えられる。

古墳時代の遺構

この時代の水田跡は、時期をおいて2度にわたり噴火を繰り返した横山二ツ岳を給源とする噴出物が、その後台風、大雨などが原因で発生したと考えられる洪水（泥流）によって、埋没したものである。洪水災害は、高崎市域の広い範囲に広がっている。

6世紀中葉の水田跡（F P洪水層下水田跡）は、高崎市の発掘調査においても検出例はあまり多くない。水田耕作土層は、F A洪水層の上に堆積した粘性を持つ黒色乃至灰色土壌である。一般的に水田耕作土層は薄く、プラント・オパール分析においても検出される稲科のプラント・オパールの数は少ない。また、水田の形態は小區画水田である。

6世紀前半の水田跡（F A洪水層下水田跡）は、群馬県の調査では、熊野堂遺跡などの検出例があるが、高崎市教育委員会が実施した調査では、1979年の芦田戸Ⅱ（遺跡番号26、高崎市文化財調査報告書19）、御市Ⅱ遺跡（遺跡番号28、高崎市文化財調査報告書18）が嚆矢であり、その後の調査において浅間山B軽石下水田跡に次いで数多く検出されている。

水田は、低湿地に作られ灌漑施設や祭祀跡などを伴って検出されることがあるが、今回の調査では水田面及び人が歩行したと思われる足跡が検出された。また、プラント・オパール分析においても稲科のプラント・オパールの数が多く、水田耕作を行っていた可能性が高いと考えられている。

報告書の刊行について

今回の調査は、都市計画道路宿横手・大沢線街路事業に伴い実施した第2年次の埋蔵文化財発掘調査である。事業主管課（建設部都市施設課）から道路築造部分についての発掘調査の依頼があり、高崎市教育委員会文化財保護課が調査を実施することになった。調査対象面積（3面調査となったため、調査面積が約3倍となった）に比べ、調査期間が短く（実質的に発掘調査を開始したのは、平成16年1月から）十分な成果を得られたとはいえない部分もあるが、中・近世から古墳時代までの生産址（水田跡）を検出することができた。

ところで、高崎市においては、通常、発掘担当者が発掘調査終了後、当該年度内に発掘調査の成果を報告書にまとめ刊行することになっている。しかし、今回は、発掘調査が年度末にかかり、調査を終了したのが3月中旬

となってしまったため、発掘担当者（池田）が十分な整理を行うことができなかった。さらに、池田が、15年度末の人事異動で高崎市内の小学校に異動することになってしまったため、16年度に、吉田が報告書刊行作業を引き継ぐこととなった。報告書の編集にあたっては、池田が残した編集方針メモに従って、吉田が作業を行った。

なお、高崎市における水田については、平成12年3月刊行の新編「高崎市史」資料編2 原始古代Ⅱ（編集高崎市史編さん委員会、発行 高崎市）の第二部 発掘された水田・畠をご覧いただきたい。高崎市における水田遺跡及び畠跡や個別遺跡についての概要がコンパクトにまとめられている。

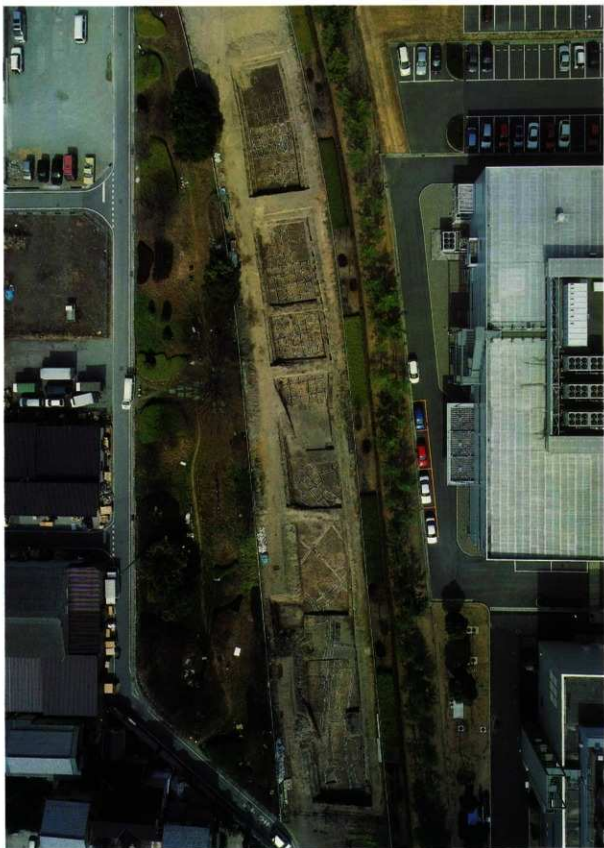


写1 第1面B 礫石下水田面（南から）

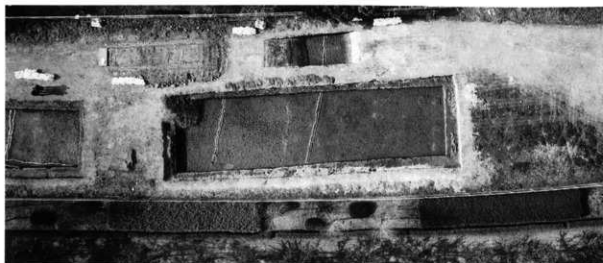
写真図版 2



写2 第2面（南から）



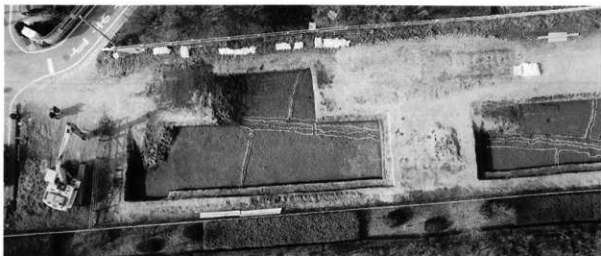
写3 第3面（上が北）



写4 1区、4区(右が北)



写5 2区(右が北)



写6 3区(右が北)

写真図版 5



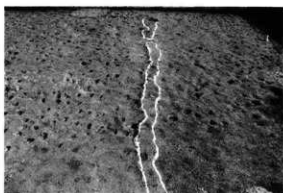
写7 1区B軽石下水田面発掘作業（南東から）



写11 1区1号畦畔（西から）



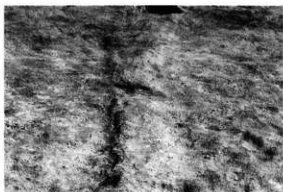
写8 1区南B軽石下水田面（南から）



写12 1区2号畦畔（西から）



写9 耕作痕（南から）



写13 1区2号畦畔水口（西から）



写10 1区、4区全景（南から）



写14 4区B軽石下水田面（西から）

写真図版 6



写15 6区B経石下1号畦畔（東から）



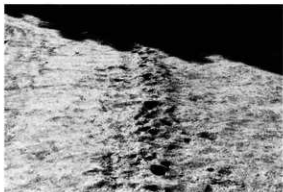
写19 2区B経石下4号畦畔（北から）



写16 6区B経石下2号畦畔（南東から）



写20 2区1号畦畔（西から）



写17 6区2号畦畔（東から）



写21 2区2・3号畦畔（西から）



写18 2区B経石下4号畦畔（南から）



写22 2区大畦畔と溝（南から）

写真図版 7



写23 5区B経石下全景（南から）



写24 5区B経石下全景（北から）



写25 5区4・2・1号畦畔（東から）



写26 3区3号畦畔（北から）



写27 3区大畦畔と水田面（南から）



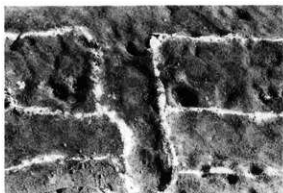
写28 3区大畦畔と水田面（南から）



写29 3区大畦畔取水口（東から）



写30 3区大畦畔取水口（北東から）



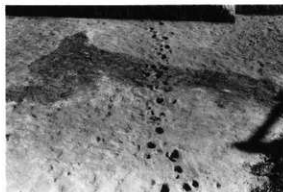
写31 3区大畦畔取水口（西から）



写32 3区2号畦畔（西から）



写33 3区1・3号畦畔水口（北から）



写34 3区馬蹄痕（西から）



写35 7区F P下水田面（南から）



写36 7区F P下水田面（南から）



写37 5区B 軽石下2号畦畔と8区FA下（南から）



写38 5区B下大畦畔の下のFA下畦畔（南から）

写真図版 9



写39 9区F P下水田面 (南から)



写43 13区F A下水田面 (南西から)



写40 9区F P下、手前はB軽石下 (南から)



写44 14区F P下 (南西から)



写41 11区F P下 (西から)



写45 14区F P下水田推定線 (南西から)



写42 12区F P下、13区F A下 (南西から)



写46 13区A 軽石処理坑 (東から)



写47 8区、16区FA下水田面（北から）



写48 16区FA下（北から）



写49 8区FA下足跡（北から）



写50 17区FA下手前はB経石下（南東から）



写51 16区南壁セクション（北から）



写52 17区FA下（北西から）



写53 17区、10区FA下（西から）



写54 17区FA下足跡（東から）



写58 17区FA下水田面（北東から）



写55 17区FA下畦畔と東壁セクション（西から）



写59 18・19・13区FA下水田（南東から）



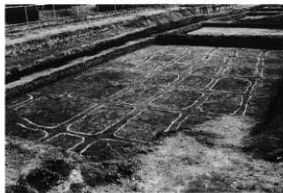
写56 10区FA下（南西から）



写60 13区南と19区FA下（北東から）



写57 10区南部分FA下足跡（西から）



写61 13区FA下（北西から）



写62 13区南F A下水田面足跡（西から）



写66 17区北壁セクションC軽石混土溝①（南から）



写63 20区、15区F A下水田面（南から）



写67 17区南壁セクションC軽石混土溝①（北から）



写64 20区、15区F A下水田面（北から）



写68 17区南壁セクションC軽石混土溝②（南から）



写65 19区と13区F A下



写69 17区北壁セクション（南から）



写70 4面目検索試掘1トレンチ北壁セクション



写74 2面目空撮直後遺跡全景（北から）



写71 4面目検索試掘2トレンチ北壁セクション



写75 2区中央ビット（西から）



写72 10区～13区4面目検索試掘トレンチ（北西から）



写76 2区南ビット（西から）



写73 13区F A下検出作業（北西から）



写77 埋め戻し後の状況（南から）

付 章

自然科学分析調査報告書

萩原沖中遺跡

株式会社 古環境研究所

高崎市、萩原沖中遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 萩原沖中遺跡の土層

1. はじめに

高崎とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、標名や浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物（さいせつぶつ）、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代などを知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された高崎市沖中遺跡においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、指標テフラの有無の確認を行い、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、9区および7区である。

2. 土層の層序

(1) 9 区

9区では、下位より黒色粘質土（層厚3cm以上）、成層したテフラ層（層厚3.2cm）、灰色シルト層（層厚0.4cm）、黒色腐植質泥層（層厚0.4cm）、暗灰色粘質土（層厚4cm）、黒灰色腐植質泥層（層厚0.3cm）、黄白色細粒火山灰層（層厚0.1cm）、暗灰色腐植質泥層（層厚0.1cm）、桃白色シルト層（層厚0.8cm）、黒灰色腐植質泥層（層厚0.1cm）、黄白色シルト層（層厚1cm）、灰色シルト層（層厚1cm）、灰白色シルト層（層厚2cm）、白色シルト層（層厚2cm）、灰色粘質土（層厚28cm）、若干色調が暗い灰色粘質土（層厚4cm）、成層したテフラ層（層厚8.7cm）、砂混じり黒灰褐色土（層厚4cm）、暗灰色砂質土（層厚18cm）、黄色砂層（層厚2cm）、黄灰色砂質土（層厚6cm）、白色軽石混じり灰色土（層厚12cm、軽石の最大径6mm）、黄灰色砂層（層厚8cm）、砂混じり灰色土（層厚4cm）、黄色砂層（層厚2cm）、白色軽石混じり灰色土（層厚7cm、軽石の最大径5mm）、盛土（層厚5cm以上）が認められる（図1）。

これらのうち、下位の成層したテフラ層は、下部の褐色細粒火山灰層（層厚0.2cm）と、上部の白色軽石混じり黄灰色粗粒火山灰層（層厚3cm、軽石の最大径17mm）からなる。このテフラ層は、層相から6世紀初頭に標名火山から噴出した標名二ツ岳沢川テフラ（Hr-FA、新井1979、坂口1986、早田1989、町田・新井1992）と考えられる。発掘調査では、このテフラ層の直下から水田遺構が検出されている。その上位の黄白色細粒火山灰層は、層位や層相から、6世紀中葉に標名火山から噴出した標名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、新井1982、坂口1986、早田1989、町田・新井1992）の最上部に同定される。

上位のテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚0.2cm）、褐色軽石混じりでかすかに成層した褐色粗粒火山灰層（層厚4cm、軽石の最大径13mm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚0.8cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.3cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、黄白色粗粒火山灰層（層厚2cm）からなる。このテフラ層は、その層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、荒牧1968、新井1979）に同定される。さらに盛土のすぐ下位の土層中に含まれる白色軽石については光沢が認められることから、1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A、荒牧1968、新井1979）に由来すると思われる。

以上のテフラとの関係から、本遺跡では、Hr-FAとHr-FPの間、Hr-FPのすぐ上位、As-BとAs-Aの間などに、洪水性堆積物が認められる。前二者については、層位や層相から標名火山の6世紀に発生した2度の噴火に伴う火山泥流堆積物（早田1989）、後者については中世における利根川の流路移動に伴って発生した洪水堆積物（早田1997）の可能性が考えられる。

(2) 7 区

7区では、下位より黒灰色腐植質泥層（層厚10cm以上）、灰白色軽石を多く含む黒灰色腐植質泥層（層厚7cm、軽石の最大径7mm）、黒色腐植質泥層（層厚4cm）、Hr-FAの堆積が認められる（図2）。これらのうち、黒灰色腐植質泥層中に認められる灰白色軽石については、その層位や色調などから、3世紀終末～4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C、荒牧1968、新井1979、友廣1988、若狭2000）に由来する可能性が考えられる。

3. 小 結

萩原沖中遺跡において、地質調査を行った。その結果、本遺跡の土層断面では、下位より浅間C軽石（As-C、3世紀終末～4世紀初頭）、榛名二ツ岳淡川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）、Hr-FAに伴う火山泥流堆積物、榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、6世紀中葉）、Hr-FPに伴う火山泥流堆積物、浅間Bテフラ（As-B、1108年）、中世の利根川の流路変化に伴うと考えられる洪水堆積物、浅間A軽石（As-A、1783年）などを検出することができた。発掘調査で検出された水田遺構は、Hr-FAの直下に層位があると考えられる。

【文 献】

- 新井房夫（1979）関東地方西北部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル、no.157、p.41-52。
荒牧重雄（1968）浅間火山の地質。地団研専報、no.45、65p。
町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス。東京大学出版会、276p。
坂口 一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」、p.103-119。
早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究、27、p.297-312。
早田 勉（1997）利根川流域の自然景観の生い立ち。上毛新聞社ほか編「利根川322キロの旅ー流域の自然とその営みを求めて」。上毛新聞社、p.12-20。
友廣哲也（1988）古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」、p.325-336。
若狭 徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動くー古墳が成立する頃の土器の交流」、p.41-43。

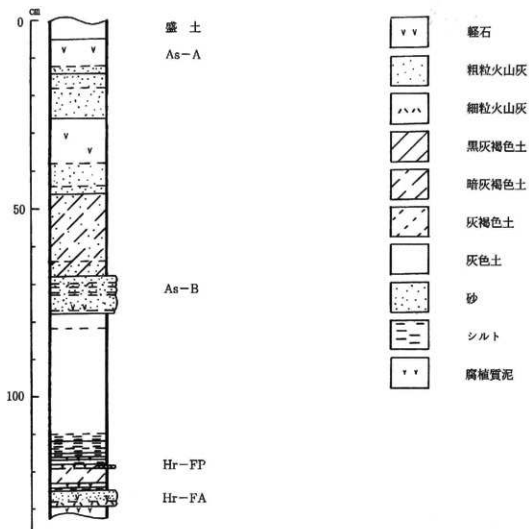


図1 9区の土層柱状図

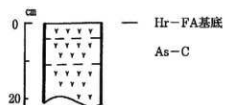


図2 7区の土層柱状図

II. 萩原沖中遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山、2000)。

2. 試料

試料は、9区の土層断面から採取された3点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法 (藤原、1976) を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけた、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-4}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山、2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

9区の土層断面では、As-B直下層 (試料1)、Hr-FP直下層 (試料3)、Hr-FA直下層 (試料4) について分析を行った。その結果、これらのすべての試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層 (試料1) とHr-FA直下層 (試料4) では密度が7,500個/gおよび5,300個/gと高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Hr-FP直下層 (試料3) では、密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行

われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が遅かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。イネ以外の分類群では、各層ともヨシ属が比較的多く検出され、ススキ属型やタケ亜科は少量である。おもな分類群の推定生産量によると、各層ともヨシ属が優勢となっている。

以上のことから、各層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。なお、イネとヨシ属が共伴することから、水田雑草としてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたことなどが想定される。

6. まとめ

プラント・オバール分析の結果、水田遺構が検出された標名二ツ岳沢川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）直下層では、イネが多量に検出され、同層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、浅間Bテフラ（As-B、1108年）直下層でもイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。さらに、標名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、6世紀中葉）直下層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。

【文 献】

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オバール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213。
藤原宏志（1976）プラント・オバール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―、考古学と自然科学、9、p.15-29。
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オバール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オバール分析による水田址の探査―、考古学と自然科学、17、p.73-85。

表1 高崎市、萩原沖中遺跡におけるプラント・オパール分析結果検出密度 (単位: $\times 100$ 個/g)

地 点 ・ 試 料		9 区		
分 類 群	学 名	1	3	4
イ ネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	75	7	53
ヨ シ 属	<i>Phragmites</i> (reed)	38	60	106
ス ス キ 属 型	<i>Miscanthus</i> type	15	7	23
タ ケ 亜 科	Bambusoideae (Bamboo)	8	30	30

推定生産量 (単位: $\text{kg}/\text{m}^2 \cdot \text{cm}$)

イ ネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	2.21	0.22	1.56
ヨ シ 属	<i>Phragmites</i> (reed)	2.37	3.78	6.71
ス ス キ 属 型	<i>Miscanthus</i> type	0.19	0.09	0.28
タ ケ 亜 科	Bambusoideae (Bamboo)	0.04	0.14	0.15

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

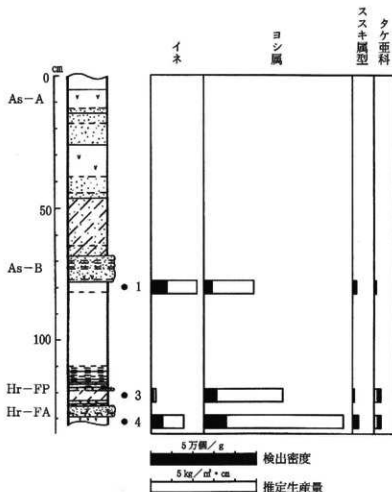
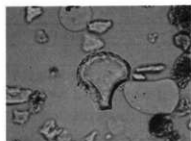


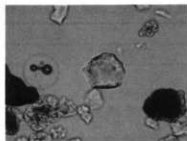
図1 高崎市、萩原沖中遺跡におけるプラント・オパール分析結果



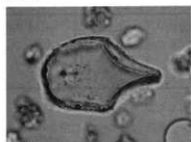
イネ
試料 1



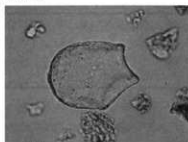
イネ
試料 4



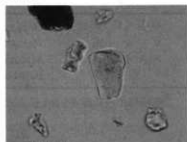
ジュズダマ属
試料 1



ヨシ属
試料 1



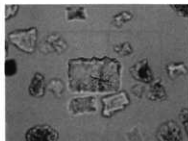
ヨシ属
試料 3



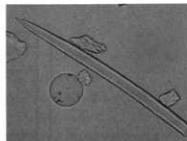
ススキ属型
試料 4



ネザサ節型
試料 3



ネザサ節型
試料 4



海綿骨針
試料 3

植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

50 μ m

発掘調査報告書抄録

ふりがな	はぎわら おきな いせき
書名	萩原 沖中 遺跡
副書名	都市計画道路宿機手・大沢線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第194集
編著者名	池田 敏
発行機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	平成17(2005)年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はぎわら おきな いせき 萩原沖中遺跡	たかざき 高崎市 はぎわら 萩原町 おきな 沖中	102020	380	36度 20分 35秒	130度 94分 14秒	2004. 1. 8 ~ 2004. 3. 15	延べ 1,800㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
萩原沖中遺跡	生産跡	古墳	水田跡(畦畔)	土器片	FA・FP流層下
	生産跡	平安	水田跡(畦畔)	土器片	B軽石層下
	その他	中世・近世	土坑・ピット		A軽石処理坑 他

高崎市文化財調査報告書第194集

萩原沖中遺跡

印刷日 平成17年 3 月31日

発行日 平成17年 3 月31日

編 集 高崎市教育委員会
文化財保護課埋蔵文化財係

発 行 高崎市教育委員会
〒370-8501
群馬県高崎市高松町35番地 1
電話 027 (321) 1111

印 刷 荒瀬印刷株式会社
群馬県高崎市上小埜町733番地
電話 027 (343) 4132